



教育理念

学校教育目標

山武中ポリシー

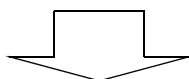
その道において一流

豊かな人間性を備えた生徒を育てる

夢と希望を持ち目標に向かって
たくましく前進する生徒の育成

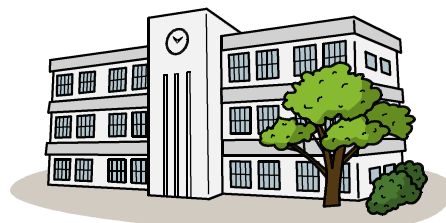
自ら考え 考動 し、共(生徒・教師・地域)に創る

- (1) 授業を創り、学びを創る。
- (2) 自分を創り、仲間を創る。
- (3) 心と身体を創り、学校を創る。
- (4) 文化を創り、地域を創る。



めざす学校像

- 学び合いのある学校
- 明るい学校
- 楽しい学校
- 活力のある学校
- 信頼される学校



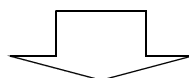
めざす生徒像

- 自律・・・自ら判断し考動する生徒
- 尊重・・・互いの違いを認め、他者を尊重する生徒
- 創造・・・豊かな発想で新たな時代の創造を担う生徒
- 健康・・・心身ともに健康な生徒

めざす教師像

- 指導・・・質の高い指導技術を発揮できる教師
- 発想・・・意識改革を図る発想力豊かな教師
- 協調・・・チームの一員として活動できる教師
- 信頼・・・信頼される教師
- 健康・・・心身の健康を保てる教師

教師の日常実践



職員の合言葉「ホウ・レン・ソウ+キ・カク」

【学習指導】

- ◇生徒が主役の授業展開
- ◇個に応じた指導・支援
- ◇教材研究
- ◇学習習慣の確立

【生徒指導】

- 正確な情報
- すばやく
- 誠実に
- 組織で
- 継続的に
- 記録

【危機管理】

- ☆サ：最悪を想定して
- ☆シ：慎重に
- ☆ス：素早く誠実に
- ☆セ：誠意をもって
- ☆ソ：組織で

【達成のための方策】

（１）「確かな学力」を育む学習の推進

- ①主体的な学びを促進するために、シラバスを活用し、学習の見通しを提示する。
- ②ＩＣＴ機器（情報通信技術）の効果的な活用によって、教育の質を高める。
- ③インクルーシブ教育システムを推進するとともに、障がいのある生徒の学びと切れ目のない支援体制の構築に努める。
- ④全国学力・学習状況調査、県標準学力検査の結果を分析し、教科指導の充実や授業改善に努める。
- ⑤観点別学習状況から評価することにより、評価が授業改善等の指導、そして子どもたちの学びに結びつくようにする。
- ⑥キャリア教育を全教育活動の中で取り入れ、働くことへの夢や希望が得られるような学習方法を工夫する。

（２）「豊かな心」を育む教育と望ましい人間関係づくりの推進

- ①よりよく生きるための基盤となる道徳性を養い、人間としての生き方について考えを深める道徳科の授業を要とした道徳教育の充実を図る。
- ②「いじめ」を含めた学校生活アンケートを各学期に１回以上実施し、その直後に全生徒と教育相談・面接を行うことで未然防止・早期対応に努める。
- ③生徒会活動、学校行事等をできる限り、生徒の手によって企画・運営させたり、学年行事では、班別学習を実践させることで、生徒の自主・自治的な活動を育む場として位置づける。
- ④発達段階を考慮し、多面的な生徒理解に努めながら毅然とした姿勢で指導（排除しない・是々々教育）することで、心の居場所となる学校づくりに努める。
- ⑤生徒が主役である号令の無い卒業証書授与式を全職員と全生徒で創り上げる。

（３）「健やかな体」を育む指導と安心・安全な環境づくりの推進

- ①保健主事・養護教諭が中心となって学校保健委員会を定期的開催し、保健指導の充実を図る。
- ②体力と健康を維持するための望ましい食習慣を形成する食育指導の充実を図る。
- ③自助・共助・公助の意識を高め、一年を通して計画的に「命」を大切に安全・防災教育を実施する。
- ④毎月の施設・設備点検（見て・触れて・負荷をかける）を行い、修繕・改修が必要な箇所については、関係機関と連絡を取り、早期に対処する。
- ⑤年度当初に交通安全教室を開催し、定期的にＰＴＡ・地域と連携して登下校の指導にあたり、交通安全指導の充実を図る。

（４）地域・家庭及び学校間の連携と「信頼される学校づくり」の推進

- ①学校運営協議会と連携を図り、地域と共に歩む学校づくりを推進する。（年３回実施）
- ②小・中連携を深め、児童生徒に共通する課題を解決するための教職員の交流と研修を定期的に実施する。
- ③「夢の実現」に向けた地域の資源（人財）を活用した教育活動（キャリア教育）を推進する。
- ④学校・学年だよりをホームページ及びメール配信等を活用して情報配信するとともに、フリー参観を学期に１回実施する。
- ⑤学校評価アンケートを年２回（１・２学期）実施し、その評価を学校経営に生かす。

（５）「教職員の資質向上」を目指した研修と働き方改革の推進

- ①研修部が中心となって、探究型・課題解決型への授業変換を支援する校内研修を実施する。
- ②生徒指導の機能を生かした授業規律を確立するとともに、「主体的・対話的な学び」を意識した授業改善に日々取り組む。
- ③校外研修（一人１研修）への積極的な参加と研修内容の共有を図る。
- ④各種の危機管理マニュアルを熟知し、モラルアップ委員会が中心となって、反復継続的な服務規律に係る不祥事防止に向けた実効性のある校内研修を実施する。
- ⑤行事の持ち方を工夫、部活動の地域移行・朝の活動を原則中止、５時間授業の実施を推進する。

【本年度の重点課題】

- ◇確かな学力の定着【英語検定取得率のアップ・ＩＣＴ機器の利活用】
- ◇長欠（不登校）生徒の解消【全欠席者の減少・外部機関との連携】
- ◇外国籍生徒・保護者への支援・指導の充実【日本語教室の運営】
- ◇働き方改革の推進【部活動地域移行・５時間授業の推進】